

水稲収穫後の水田管理

今年の稲作も終盤になりました。
 米の収穫が終わると一息つける季節となりますが、また来年に向けての土づくりを始める時期です。
 圃場の状態が整ったら速やかに**荒起こし**(稲ワラの鋤き込み)を行いましょ。

荒起こし前の準備

水田に水が溜まっていたり、歩くと水がにじみ出る状態では好適な荒起こしは出来ません。収穫後は、水尻をしっかり開け圃場排水を図りましょう。また湿田では額縁排水を設け、排水に努めましょう。水田が十分乾燥すれば、年内なるべく早めに荒起こしを行いましょ。

荒起こし(稲ワラの鋤き込み)効果

- ① 石灰窒素(20キロ/1反)を施用し鋤き込むと、稲ワラの分解が促進されます。
- ② 稲ワラなどの有機物は、土壌中の微生物の活動を助け養分を保持する能力を高めます。
- ③ 稲ワラが分解されるので、ウンカなど害虫の越冬場所がなくなります。
- ④ いもち病などの越冬菌核を鋤き込むことにより、防除効果を高めます。
- ⑤ 土壌の中に空気を入れ乾燥を促進させ、乾土効果を得ます。
- ⑥ クログワイやオモダカ等、雑草の発生源になる塊茎を表面に出し、枯死させる事により翌年の雑草対策になります。

刈り取り後水田に残った雑草にはラウンドアップマックスロードを散布しましょう。寒くなる前、10月中旬に散布する方が効果が高くなります。なお、散布後2週間以上経過後、鋤き込みしましょう。

土壌改良資材施用の効果

- ① ケイ酸質資材施用の効果として、登熟が向上し粒太りが良くなります。また茎や葉を丈夫にするので、倒伏や病害虫に強くなります。
- ② 含鉄資材施用の効果として、根ぐされを予防し生育後期まで根の活力を保つため、秋落ちを防ぎ品質向上に役立ちます。

エコ鉄ちゃん (20キロ) 含鉄資材



酸化鉄24~26%、ケイ酸13%、アルカリ35%
 根を守り、丈夫な稲を作り、品質向上に欠かせない土づくり資材。

- 使用目的.....土壌改良資材
- 対象作物/施肥基準...水稲100~200k/1反

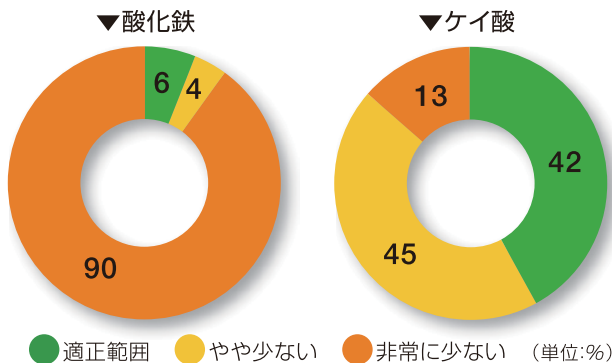
とれ太郎 (20キロ) ケイ酸質資材



リン酸6%、苦土12%、ケイ酸30%、アルカリ40%を含む土づくり資材。ケイ酸の吸収率が高く、粒状のため撒きやすい土づくり資材。

- 使用目的.....土壌改良資材
- 対象作物/施肥基準...水稲60~80k/1反

※平成26年12月実施の土壌分析
 案内は次頁に記載しております。



平成25年12月に実施しました管内水田166圃場の分析により管内全体を通して、ケイ酸、酸化鉄ともに、少ない結果が出ています。
 当JAで毎年2回実施している**土壌分析**を利用し、診断結果に基づいた土壌改良資材を継続して施用すると、土づくりにはより効果的です。

栽培方法の検証

今年の稲作を振り返り、中干し等の栽培管理が適切であったか検討して下さい。また、「生育の状況」「収量の状況」「生産した米の品質」など、良かった点、良くなかった点などをまとめて、来年の水稲栽培に役立てましょ。